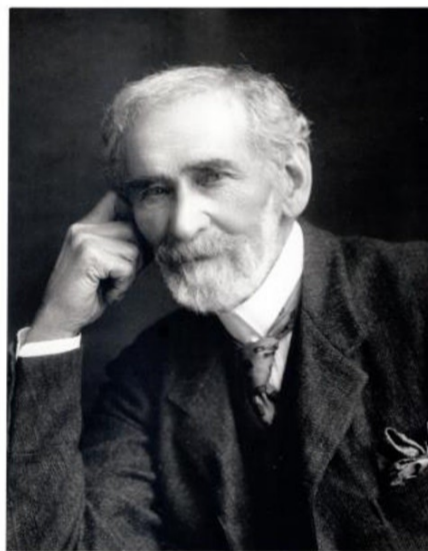
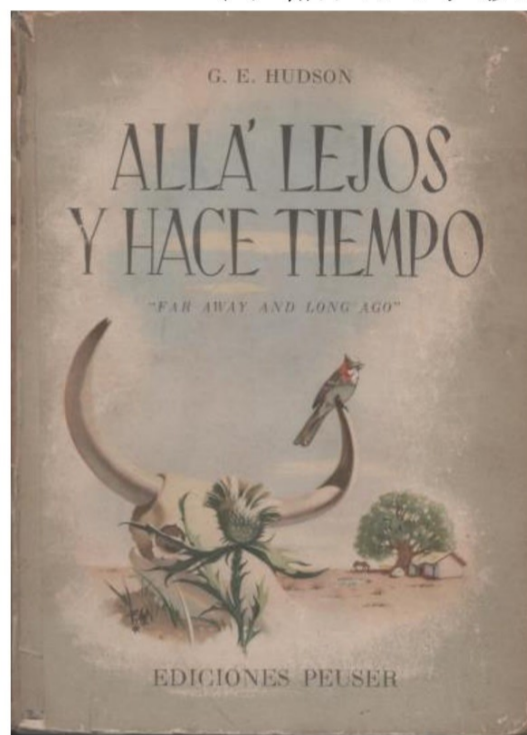


京都外国語大学ラテンアメリカ研究所講演会

「日本・アルゼンチン友好の象徴としてのハドソン
-ウィリアム・ヘンリー・ハドソン没後 100 周年にあたって-

高木 佳奈 (たかき かな)
(早稲田大学教育学部助教)



この度京都外国語大学ラテンアメリカ研究所では、早稲田大学教育学部助教の高木 佳奈 (たかき かな) 先生をお迎えし、講演会を開催いたします。

高木先生は日本学術振興会特別研究員 PD (東京大学) を経て、現在は早稲田大学教育学部複合文化学科で教鞭を取られるとともに、アルゼンチンを中心に、日系人の文化活動や日本との文化交流について研究されています。万象お繰り合わせの上、ぜひご参加ください。

【講演要旨】

ウィリアム・ヘンリー・ハドソン (スペイン語名: ギジェルモ・エンリケ・ハドソン、1841-1922) は、アルゼンチン出身の作家・鳥類学者である。1874 年に英国に渡り、南米の自然を描いた作品を数多く残した。オードリー・ヘプバーン主演で映画化された小説『緑の館』(1904) は、日本の英語学習教材にも使用されている。

英文学の作家として知られるハドソンだが、実は日本とアルゼンチンの友好関係においても重要な役割を果たしている。彼の姪ラウラが日本人と結婚したことにより、日本との深いつながりが生まれたのである。ラウラの夫はアルゼンチンへの日本人移民の先駆者である榛葉賛雄 (しんやよしお、1884-1954) であり、二人の娘ビオレタはハドソン博物館の館長を務めた。

2022 年はハドソン没後 100 年目にあたる。この節目の時を迎えて、日本における受容や、日本・アルゼンチンの友好関係という観点からハドソンの作品を紹介する。

日 時: 2022 年 11 月 18 日 (金) 18 時 00 分~19 時 30 分

Zoom によるオンライン開催 参加費無料/事前予約要



<https://forms.gle/njnvAzG2k4GUdrgE7>



主催: 京都外国語大学ラテンアメリカ研究所